



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月8日

上場会社名 井村屋グループ株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 2209 URL <https://www.imuraya-group.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大西 安樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長ファイナンス室長 (氏名) 富永 治郎 (TEL) 050-1791-2014
 四半期報告書提出予定日 2023年11月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	22,979	6.9	1,104	△3.4	1,378	△9.7	954	△28.6
2023年3月期第2四半期	21,493	10.1	1,143	82.7	1,526	103.7	1,337	189.8

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 1,157百万円(△7.8%) 2023年3月期第2四半期 1,255百万円(155.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	72.91	—
2023年3月期第2四半期	102.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	40,485	19,474	48.0
2023年3月期	34,107	18,684	54.7

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 19,448百万円 2023年3月期 18,653百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	28.00	28.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	28.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,500	4.1	2,000	0.4	2,100	△8.1	1,400	△13.1	107.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年3月期2Q	13,086,200株	2023年3月期	13,086,200株
2024年3月期2Q	2,096株	2023年3月期	1,919株
2024年3月期2Q	13,084,170株	2023年3月期2Q	13,084,398株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、人流の拡大やインバウンド需要の増加などにより、緩やかな回復基調が見られましたが、ロシア・ウクライナ情勢の長期化の影響など、先行き不透明な状況が続いております。

菓子・食品業界におきましても、原材料費や物流費用の増加する中、物価上昇に対するお客様の節約志向や消費動向の変化もあり、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは2023年度、中期3カ年計画「Be Resilient 2023 ～新しい時代をしなやかに生きる～」の最終年度を迎え、財務目標並びに非財務目標の達成と今後の中長期プランを策定する重要な年次となります。中期3カ年計画の目標数値に対しては計画に沿って進捗しております。今年度の目標数値は最終年度の目標数値と同様であり、目標達成を目指してまいります。

今年度はパーパスである「おいしい！の笑顔をつくる」を追求していくため、活動テーマを「倦まず・弛まず・積極果敢」として、サステナブル経営を目指し、目標達成に向けたイノベーションに取り組んでおります。

グループ全体の成長戦略の一環として三重県津市「中勢北部サイエンスシティ」内に竣工した井村屋株式会社「あいつFACTORY」は輸出やEC販売強化に向け、計画に沿って順調に稼働しております。また、井村屋フーズ株式会社の調味料事業では粉末加工拡大に向け、品質面と環境面そして生産性向上の観点から新たな付加価値を創造する新工場スプレードライヤー6号機が9月に竣工しました。独自技術を活かした新規商材の提案を行い市場開拓を進めていきます。海外事業においても、積極的な販売活動を展開し、更なる成長戦略に取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、井村屋株式会社の冷菓カテゴリーや点心・デリカカテゴリーの売上が増加しました。また、井村屋フーズ株式会社におけるOEM受託商品の受注が順調に推移しました。その結果、連結売上高は、229億79百万円（前年同期比6.9%増）となりました。

損益面では、原材料価格、物流費用が増加する中、価格の改定を行うとともに継続した生産性向上活動によりコスト削減に取り組みました。計画的な設備投資に伴う減価償却費の増加や為替差益及び補助金収入が前年同期より減少した影響により、各利益は前年同期からは減少しましたが、当初の連結業績予想数値は大きく上回りました。

その結果、営業利益は11億4百万円（前年同期比3.4%減）、経常利益は13億78百万円（同9.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は9億54百万円（同28.6%減）となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

① 流通事業

流通事業（BtoC事業）の中心となる井村屋株式会社では、夏場の主力となる冷菓カテゴリーの売上が増加し、「肉まん・あんまん」などの点心・デリカカテゴリーが下期のシーズンに向けて好調なスタートとなりました。BtoB事業の井村屋フーズ株式会社では、スパウチ商品の受注が順調に推移しました。

以上の結果、流通事業の売上高は207億72百万円（前年同期比7.6%増）となり、セグメント利益は16億4百万円（同0.7%増）となりました。

流通事業におけるカテゴリー別の概況につきましては以下のとおりです。

（菓子カテゴリー）

「片手で食べられる小さなようかん」や「もっちりぶるんわらびもち」シリーズが順調に推移しましたが、鳥インフルエンザの影響による鶏卵不足から生産調整を行った「どら焼き」や「カステラ」の売上が減少しました。

以上の結果、菓子カテゴリーの売上高は36億2百万円（前年同期比1.1%減）となりました。

（食品カテゴリー）

チューブ入り商品「トッピング」シリーズの「かけるご褒美 あん×バター」が順調に推移しました。また、新商品「レンジで煮物 かぼちゃのそぼろ煮」「レンジで煮物 なすのみぞれ煮」を発売し、好評をいただいております。冷凍食品では「ゴールドまん」シリーズの売上が増加しました。井村屋フーズ株式会社の食品加工事業では、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、スポーツやイベントの活発化に伴いスパウチ商品の受託加工が順調に推移しました。

以上の結果、食品カテゴリーの売上高は29億14百万円（前年同期比7.2%増）となりました。

(デリーチルドカテゴリー)

「豆腐類」では「硬め豆腐」や「そのまま食べて美味しい豆腐」が順調に推移し、販売を強化した業務用向け商品の売上が増加しました。

以上の結果、デリーチルドカテゴリーの売上高は7億22百万円（前年同期比2.1%増）となりました。

(冷蔵カテゴリー)

発売50周年を迎えた主力商品「あずきバー」シリーズが猛暑の影響もあり順調に推移し、上期において過去最高の売上本数2億54百万本を記録しました。50周年の記念商品として新商品の「こしあんバー」を数量限定で発売させていただきました。米国のIMURAYA USA, INC. やマレーシアのIMURAYA MALAYSIA SDN. BHD. においても現地で「あずきバー」の販売促進活動を積極的に展開し、海外市場での更なる成長戦略に取り組みました。「やわもちアイス」シリーズでは、新たにかき氷に着目した新商品「やわもちアイス 抹茶氷」が売上増加に大きく貢献しました。

以上の結果、冷蔵カテゴリーの売上高は112億60百万円（前年同期比11.4%増）となりました。

(点心・デリカテゴリー)

「肉まん・あんまん」などの点心・デリカテゴリーは、8月からのコンビニエンスストア導入が順調にスタートし、付加価値を高めたリニューアル商品が好調に推移しました。また、新商品も売上増加に貢献しました。

以上の結果、点心・デリカテゴリーの売上高は20億15百万円（前年同期比11.8%増）となりました。

(スイーツカテゴリー)

スイーツカテゴリーでは、コロナ禍からの社会経済活動の活性化に伴い集客数も増加し、「La maison JOUVAUD (ラ・メゾン・ジュヴォー)」各店舗の売上は前年同期を上回りました。「アンナミラズ」では前年の8月31日に「アンナミラズ高輪店」を閉店した影響により売上は減少しましたが、6月13日にはバーチャルショップをグランドオープンし、お客様に感謝の気持ちをお伝えするとともに様々なブランドの活用を展開しております。8月にはエキュート品川において期間限定で「アンナミラズ」のポップアップショップを出店し、連日好評をいただきました。

以上の結果、スイーツカテゴリーの売上高は1億98百万円（前年同期比25.6%減）となりましたが、今後のブランド活用に期待がもてる状況となっております。

(VISON (ヴィソン) カテゴリー)

VISON (ヴィソン) では、三重県の水と酒米、酵母を使用し、風土に根差し、素材にこだわった日本酒の製造・販売を行う「福和蔵」と、和菓子を販売する「菓子舗井村屋」の2店舗を三重県多気町の大型商業リゾート施設内にて運営しております。「福和蔵」においては、「福和蔵 純米大吟醸」が、5月に世界的に最も権威のある審査会の一つであるIWC (インターナショナル・ワイン・チャレンジ) 2023 SAKE (日本酒) 部門「純米大吟醸酒」カテゴリーにおいてゴールドメダルを受賞しました。更に9月には「福和蔵 純米吟醸」が全米日本酒飲評会において金賞を受賞し、高い評価をいただいております。「菓子舗井村屋」においては、「酒々(ささ)まんじゅう 芳醸菓」や季節の味覚を取り入れた限定商品を店舗にて販売し、好評を得ております。

以上の結果、VISON (ヴィソン) カテゴリーの売上高は57百万円（前年同期比3.8%増）となりました。

② 調味料事業

国内では井村屋フーズ株式会社のシーズニング事業において、家庭内食向け需要の高まりと健康・機能性素材のOEMが伸長しました。また、9月に竣工した新工場スプレードライヤー6号機は計画に沿って本格稼働を開始しております。中国での調味料事業は、ゼロコロナ政策終了後の経済回復の遅れもあり、中国国内の売上が減少しました。

以上の結果、調味料事業の売上高は20億95百万円（前年同期比0.2%増）となり、セグメント利益は3億13百万円（同5.7%減）となりました。

③ その他事業

イムラ株式会社においてSDGsの一環として井村屋商品のアウトレット販売を行っている「MOTTAINAI屋」は、引き続き地域のお客様に好評をいただいております。また、「ソフトアイスクリーム&スイーツ店 WaiWai (ワイワイ)」においては、「アンナミラズ」のアップルパイや季節のスイーツなどを販売し売場の活性化を図りました。

以上の結果、井村屋グループ株式会社の賃貸事業を加えた、その他事業の売上高は1億11百万円（前年同期比7.7%増）となり、セグメント利益は24百万円（同259.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は404億85百万円となり、前連結会計年度末に比べ63億78百万円の増加となりました。流動資産は、夏物商品の販売及び月末銀行休業日に伴う売掛金の増加などにより、51億68百万円増の179億3百万円となりました。固定資産は、新しい製造設備の導入に伴う建物及び機械装置の増加や、投資有価証券の時価の増加などにより、12億10百万円増の225億81百万円となりました。

負債は210億10百万円となり、前連結会計年度末に比べ55億87百万円の増加となりました。流動負債は、冬物商品の生産に連動した買掛金、短期借入金の増加などにより、54億42百万円増の183億63百万円となりました。固定負債は、長期繰延税金負債の増加などにより、1億44百万円増の26億46百万円となりました。

純資産は親会社株主に帰属する四半期純利益の増加などにより、7億90百万円増の194億74百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期に向けて、下期の主力商品となる点心・デリ商品類の売上増加など、順調に推移する見込みではありますが、不安定な世界情勢を背景に原材料価格や物流コストの上昇が続いており、消費動向も依然として先行き不透明な状況を慎重に考慮し、2023年5月11日付の「2023年3月期決算短信」において公表いたしました業績予想につきましては現時点では変更はありません。

ただし、今後の業績推移等によって通期業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,689,190	1,105,297
売掛金	5,506,881	10,413,039
商品及び製品	3,109,594	3,799,448
仕掛品	339,849	404,197
原材料及び貯蔵品	993,321	1,002,674
その他	1,098,141	1,181,015
貸倒引当金	△1,189	△1,744
流動資産合計	12,735,789	17,903,928
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,245,265	19,989,142
減価償却累計額	△11,204,371	△11,395,410
建物及び構築物(純額)	8,040,893	8,593,732
機械装置及び運搬具	18,689,994	19,242,654
減価償却累計額	△14,660,478	△14,887,068
機械装置及び運搬具(純額)	4,029,516	4,355,585
土地	4,253,858	4,351,538
その他	3,193,792	2,975,423
減価償却累計額	△1,171,013	△1,265,130
その他(純額)	2,022,779	1,710,293
有形固定資産合計	18,347,048	19,011,149
無形固定資産		
リース資産	127,051	117,418
その他	42,700	32,690
無形固定資産合計	169,751	150,109
投資その他の資産		
投資有価証券	1,482,989	1,910,417
退職給付に係る資産	917,445	918,176
その他	466,979	603,184
貸倒引当金	△12,756	△11,576
投資その他の資産合計	2,854,658	3,420,202
固定資産合計	21,371,458	22,581,460
資産合計	34,107,247	40,485,389

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,739,475	3,650,700
電子記録債務	1,864,294	2,155,787
短期借入金	2,600,000	5,800,000
1年内返済予定の長期借入金	100,536	50,670
未払金	3,746,564	4,460,565
未払法人税等	626,512	651,787
賞与引当金	601,187	742,922
その他	642,227	851,317
流動負債合計	12,920,797	18,363,752
固定負債		
執行役員退職慰労引当金	56,580	56,916
退職給付に係る負債	38,472	39,276
資産除去債務	142,055	142,634
その他	2,264,910	2,407,820
固定負債合計	2,502,018	2,646,647
負債合計	15,422,816	21,010,399
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,576,539	2,576,539
資本剰余金	3,810,519	3,809,656
利益剰余金	9,841,358	10,429,886
自己株式	△4,221	△4,621
株主資本合計	16,224,196	16,811,461
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	201,956	508,868
土地再評価差額金	1,930,419	1,930,419
為替換算調整勘定	13,953	△55,426
退職給付に係る調整累計額	282,571	253,466
その他の包括利益累計額合計	2,428,901	2,637,329
非支配株主持分	31,333	26,198
純資産合計	18,684,431	19,474,989
負債純資産合計	34,107,247	40,485,389

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	21,493,196	22,979,400
売上原価	13,710,938	15,018,283
売上総利益	7,782,258	7,961,116
販売費及び一般管理費	6,639,183	6,856,944
営業利益	1,143,075	1,104,172
営業外収益		
受取配当金	26,374	31,368
受取家賃	17,566	16,707
為替差益	308,649	206,515
その他	46,478	47,126
営業外収益合計	399,069	301,717
営業外費用		
支払利息	10,514	26,031
その他	4,788	1,050
営業外費用合計	15,303	27,081
経常利益	1,526,840	1,378,808
特別利益		
投資有価証券売却益	7,413	-
補助金収入	442,169	42,969
その他	3	-
特別利益合計	449,586	42,969
特別損失		
固定資産除却損	7,635	344
特別損失合計	7,635	344
税金等調整前四半期純利益	1,968,791	1,421,433
法人税、住民税及び事業税	764,144	576,907
法人税等調整額	△126,388	△104,264
法人税等合計	637,756	472,643
四半期純利益	1,331,034	948,790
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△6,020	△5,234
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,337,055	954,025

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	1,331,034	948,790
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△43,260	306,912
繰延ヘッジ損益	3,554	-
為替換算調整勘定	△1,145	△69,280
退職給付に係る調整額	△34,611	△29,104
その他の包括利益合計	△75,462	208,527
四半期包括利益	1,255,572	1,157,317
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,259,467	1,162,452
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,895	△5,135

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,968,791	1,421,433
減価償却費	823,609	955,326
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	190	555
受取利息及び受取配当金	△31,450	△36,487
支払利息	10,514	26,031
為替差損益 (△は益)	△186,087	△126,215
固定資産除売却損益 (△は益)	7,632	344
補助金収入	△437,266	△42,969
投資有価証券売却損益 (△は益)	△7,413	-
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,828,095	△4,892,520
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△578,153	△702,028
仕入債務の増減額 (△は減少)	677,318	1,118,883
未払金の増減額 (△は減少)	820,431	872,602
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△98,842	86,848
賞与引当金の増減額 (△は減少)	145,865	141,677
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△35,000	△35,000
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△49,439	△41,328
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△3,115	△730
執行役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	4,344	336
その他	△213,434	115,548
小計	990,398	△1,137,693
利息及び配当金の受取額	31,450	36,487
利息の支払額	△10,003	△25,996
補助金の受取額	-	3,835
法人税等の支払額	△414,634	△484,675
営業活動によるキャッシュ・フロー	597,211	△1,608,042
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△919,619	△1,720,595
有形固定資産の売却による収入	550	-
無形固定資産の取得による支出	-	△233
投資有価証券の取得による支出	△2,279	△2,377
投資有価証券の売却による収入	18,397	40
その他	-	7,445
投資活動によるキャッシュ・フロー	△902,951	△1,715,720

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	600,000	3,200,000
長期借入金の返済による支出	△132,992	△49,866
リース債務の返済による支出	△57,718	△89,472
自己株式の取得による支出	△6	△399
配当金の支払額	△338,104	△370,483
財務活動によるキャッシュ・フロー	71,178	2,689,777
現金及び現金同等物に係る換算差額	62,804	50,092
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△171,757	△583,892
現金及び現金同等物の期首残高	1,069,855	1,689,190
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	109,709	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,007,808	1,105,297

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,298,774	2,090,940	21,389,714	103,482	21,493,196
セグメント間の内部売上高 又は振替高	32,787	103,199	135,986	7,869	143,856
計	19,331,561	2,194,139	21,525,701	111,352	21,637,053
セグメント利益	1,593,344	332,265	1,925,610	6,936	1,932,546

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,925,610
「その他」の区分の利益	6,936
全社費用(注)	△789,471
四半期連結損益計算書の営業利益	1,143,075

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	20,772,224	2,095,680	22,867,905	111,495	22,979,400
セグメント間の内部売上高 又は振替高	34,515	101,205	135,720	7,423	143,143
計	20,806,740	2,196,885	23,003,625	118,918	23,122,544
セグメント利益	1,604,444	313,453	1,917,897	24,955	1,942,852

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,917,897
「その他」の区分の利益	24,955
全社費用(注)	△838,680
四半期連結損益計算書の営業利益	1,104,172

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。